

## サンゴと村の暮らし

世界一サンゴにやさしい村をスローガンに7月21日に「サンゴの村」宣言をしました。今回は、本村の暮らしの中でサンゴとの関わりをご紹介します。

サンゴは、これまで建物や農業、墓関係などいろんなモノに利用されてきました。先史時代にはサンゴが営んだ海の資源である魚や貝類を採集して食料としたり、海からもたらされるモノから生活の道具に利用してきました。

古い民家や建物の礎石にもサンゴを利用したりしています。字富着の御嶽（富着古島遺跡）の中には、建物の礎石と考えられるサンゴが並んで配置されています。

現代でも屋根には漆喰を利用したりしますが、漆喰の材料はサンゴを使用していました。字仲泊の海岸沿いには石灰を作る石灰窯が並んでいたそうです。現在は、県外や国外から石灰石などを手に入れて漆喰の材料としたりしていると聞きました。

農業では、作物をイノシシから守るために猪垣を配置した畑跡が確認されていますが、猪垣にテーブルサンゴを利用したりする事例なども知られています。また、サンゴ石灰岩を用いて、石垣やお墓の材料にしたり、家型の厨子や香炉に加工したりするなど軟らかく加工しやすいサンゴ石灰岩は暮らしの中で多用されてきました。



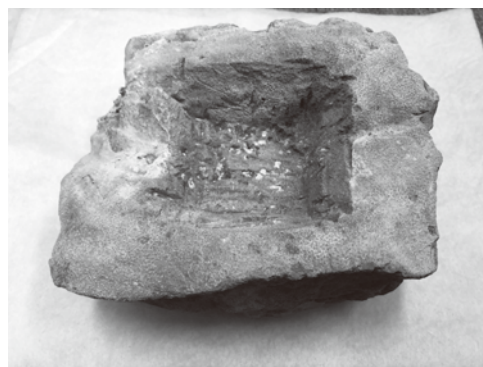
富着の御嶽のサンゴ



谷茶の猪垣



サンゴ石灰岩製厨子



サンゴ製香炉

文化財普及事業としてサンゴに関連した恩納村の暮らしをテーマに展示会を計画しております。多くの村民の皆様がご来館いただきますよう、お願いいたします。

**期 間**：10月11日（木）～11月11日（日）  
（毎週月曜日は休館）

**開館時間**：午前9時～午後5時

**場 所**：恩納村博物館企画展示室